

学校目標・経営方針	・「進取」の精神のもと、自ら思考し実践する、これからの社会で輝ける生徒の育成		
本年度の重点目標	確かな学力の定着を図るとともに、主体的に社会を生き抜いていく生徒の育成	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	多様性を認め合い、協働しながら学び活動し続ける生徒の育成		B 概ね達成できた。(6割以上)
	地域・社会とのつながりを通じて、社会に貢献できる生徒の育成		C 不十分である。(4割以上)
	教員の働き方改革に関する取り組みを推進する。		D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立青洲高等学校校長 逆瀬川 慶浩	
評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標		年度末評価(令和4年2月3日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	確かな学力の定着を図るとともに、主体的に社会を生き抜いていく生徒の育成	<p>実態に即した授業改善、アクティブラーニング・ICT活用の視点からの授業改善に取り組み、生徒の基礎学力と学習習慣を定着させる</p> <p>新学習指導要領完全実施に向けて、各教科で評価方法の工夫に取り組みとともに、生徒の自己肯定感を醸成させる取り組みを行う</p> <p>「やまなしスタンダード」7つの視点の実践に向け、相互授業参観を通して教科を超えて学び合い、魅力ある授業づくりに取り組む</p>	<p>・授業アンケート ・学校評価アンケート</p> <p>・観点別評価 ・通知表への表記方法</p> <p>・相互授業参観の状況 ・授業アンケート ・学校評価アンケート</p>
			<p>○普通科、工業科、商業科それぞれの実態に即した授業改善に取り組んだ。特にICT活用やアクティブラーニングの視点からの授業改善には多くの教科や教員が取り組み、良好であった。家庭学習習慣の定着については課題が残っている。</p> <p>○次年度からの観点別学習状況評価の実施に向けて、各教科で後期の後半で試行した。</p> <p>○相互授業参観では、報告書を「やまなしスタンダード」7つの視点を踏まえた内容に変更し、各先生方が7つの視点を意識しながら参観しコメントできるように改良した。</p>
2	多様性を認め合い、協働しながら学び活動し続ける生徒の育成	<p>各授業において、主体的・対話的で深い学びを推進し、他者と協働して問題解決に取り組む場面を設ける</p> <p>学校行事・生徒会活動・部活動などを通して、多様な立場の人たちと関わり合い、良好な人間関係を形成できる場面を設ける</p> <p>教員間の連携や保護者との連携を通して、生徒の良好な規範意識を育成する</p>	<p>・授業アンケート</p> <p>・学校行事の計画実施 ・部活動の活性化</p> <p>・教員間の情報共有 ・保護者への情報発信</p>
			<p>○授業や学校行事等で他者と協働する場面を多く設けたが、生徒が自ら考え行動するまでには課題が残った。</p> <p>○生徒の心身の状況について、生活実態調査等の回答から、組織的に状況を共有し、迅速に対応をすることができた。SCやSSWを積極的に利用した個々への対応も組織的に行えた。</p> <p>○教員間の情報共有はTeamsで、保護者への情報発信はe-メッセージでの一斉メール配信で効率化を図った。</p> <p>○「今未来手帳」を導入活用し、生徒自身がスケジュールを確認したり振り返りができるように指導した。</p>
3	地域・社会とのつながりを通じて、社会に貢献できる生徒の育成	<p>「峡南地域学」「総合的な探究の時間」「LHR」等を活用し、外部機関と連携しながら、青洲学を通して地域を知り、将来の地域貢献への基盤をつくる</p> <p>挨拶の励行や生活習慣の指導を通じて、将来の社会生活における良好な人間関係づくりの基盤をつくる</p> <p>生徒や保護者・地域への情報提供を充実させ、生徒の進路意識の向上と、保護者・地域の学校への理解を図る</p>	<p>・計画的な実施 ・外部との連携 ・地域社会への関心度</p> <p>・校内での挨拶の状況 ・服装、頭髪、遅刻状況等の様子</p> <p>・各種便りの充実 ・HP等の充実</p>
			<p>○「峡南地域学(青洲学)」における外部講師による講座やフィールドワークを通して地域との連携を実践し、生徒の取り組みも良好であった。</p> <p>○コロナ禍の影響もあり、生徒の地域交流行事やボランティア活動への参加は低調であったが、生徒会役員を中心とした県レベルでの交流行事への参加もあった。</p> <p>○挨拶の実践は、朝の登校指導等を通して奨励し、年度当初より積極的に取り組む生徒が増えた。</p> <p>○学校ホームページは、担当がほぼ毎日投稿し、校内の生徒、授業、学校行事、部活動、施設、自然等を写真や動画を交えて発信した。</p>
4	教員の働き方改革に関する取り組みを推進する。	<p>勤務時間管理の徹底と適切な勤務時間を設定し、勤務時間や健康管理を意識した働き方を徹底する。</p> <p>「きずなの日」(放課後に部活動や会議等を実施しない日)など、子供と向き合う時間を確保する。</p> <p>部活動ガイドラインを遵守した部活動運営に取り組む。</p>	<p>・勤怠管理 ・学校評価アンケート</p> <p>・学校評価アンケート</p> <p>・学校評価アンケート</p>
			<p>○日々の勤務時間をソフトで適切に管理する割合は多いが、月45時間以内の上限を超えている教員が年間平均で50%以上いた。</p> <p>○きずなの日を毎月2回づつ設けたが、定時退校日に設定しなかったため、その日の定時以降の退校の意識は低かった。</p> <p>○平日1日を休養日としていない顧問が5名、土日どちらかを休養日としていない顧問が7名確認され、部活動ガイドラインを遵守した部活動運営に課題が残った。</p>

学校関係者評価	
実施日(令和4年2月16日)	
評価	意見・要望等
4	<p>○前期後期通じて、丁寧かつ細やかな観察の中での授業の工夫がなされていることが見てとれました。その結果、学力についても確かな向上感が出しており、主体性が培われてきたものと拝察しております。</p> <p>○アンケートの結果から、先生方が授業をわかりやすくするために、また主体的で協働的な学びの実現に向け、ICTの活用や教材教具の工夫に力を入れていることが読み取れ、素晴らしいと思いました。</p> <p>○ICT活用やアクティブラーニングによる授業改善がさらに進むことを期待している。特に青洲高校として「やまなしスタンダード」の取り組みが大切かと思う。</p> <p>○授業に対するアンケートの評価も高く、教員も生徒も保護者からも一定の評価を得ていると思います。来年度は初の卒業なので、生徒の目標や夢に対してどのような結果が出るかが重要になると思います。1期生の結果はこれからの学校の方針のベースになるとしますのでぜひ頑張ってください。</p> <p>○ICTを活用した授業に取り組んでいることには、生徒達の評価からうかがえる。学習に関する悩みについて、気軽に相談できる機会や体制への取り組みがもう一段望まれる。</p>
4	<p>○授業での対話や、学校行事、部活動、生徒会活動などの機会を通じて、多様性の認識や協働の姿勢についても学びが促進されてきた様子がうかがえたと感じております。コロナ禍での制約も多くあり、大変だったであろうことが察するに余りありますが、その中で良い結果に結びつけられたことは、素晴らしいと感じます。</p> <p>○コロナ禍で、行事や部活動に様々な制約がある中で、様々な工夫のもと、よく活動し成果を上げていることが読み取れます。</p> <p>○各教科ごと「主体的学習」の成果を得るため、具体的な展開が必要だと思う。保護者との対話ができる機会をもっとあると好ましい。</p> <p>○多様性という言葉は幅が広く、まだ気づいていないものもあると思います。社会に出る前に幅広い視野を持てるような時間を設けていただきたい。</p> <p>○各授業において、他者と協働して問題解決に取り組む姿は見えてきている。学校行事、部活動などを通じた人間関係では、特に良好な傾向を感じ取れる。</p>
3	<p>○人と人とのつながりやその中での体験や経験が必要だと思うので、特にコロナ禍において課題達成が難しいテーマであったと感じております。そのような中でも様々な機会を創出して、生徒の動機付けが意図されていることがうかがえました。また、社会に出て一番大事な「挨拶やマナー」について重点的に取り組まれてきたことも、生徒の育成効果が高かったものと拝察しています。</p> <p>○現在中高連携として、中学1年生による学校見学、音楽部による合唱講演会があります。ともに中学生によっては、教育効果が高く、是非今後も続けてほしいと考えています。</p> <p>○「青洲学」は新しい試みとして期待している。教員の期待していることと生徒の思いが一致することが大切だ。</p> <p>○各科の進路指導は大変ですが頑張ってください。「青洲スタイル」の確立に期待しています。</p> <p>○青洲学について少し評価にばらつきがあります。生徒主体で授業を組み立てたり、地域からメニューを提供されるような機会を多く設けるような工夫を検討していただきたい。</p> <p>○ボランティア活動への参加については、今後も積極的に取り組んでいただきたい。</p>
3	<p>○3校の統合、また過去に類を見ないコロナ禍の中での学校オペレーションということで、先生方の働き方改革についてはかなりの制約がかかっていたものと推測できます。そのような外的要因の中で思うような改革がしにくかったと思います。</p> <p>○中学校では月80時間超の時間外勤務は許されない状況にあり、様々な工夫のもと何とか達成できております。しかし、教員定数が改善されない中、特に部活動の在り方が今後の改革の中核になることは間違いありません。難しい問題です。</p> <p>○4校一緒の生活を行ってきた生徒指導(授業、部活動)では、先生方のご苦労は計り知れないものがあります。教員の健康があつての生徒指導ですから働き方改革は最優先課題かと思えます。これまでの先生方のご尽力に感謝しています。</p> <p>○web授業のような、直接その場にいらなくてもいいような工夫をして、負担を減らしてください。</p> <p>○「長時間労働でうつ病」「残業100時間は当たり前」悲痛な叫びは青洲高校も例外ではないはず。文部科学省には本気で改革を進める姿勢を示してほしい。</p>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。